

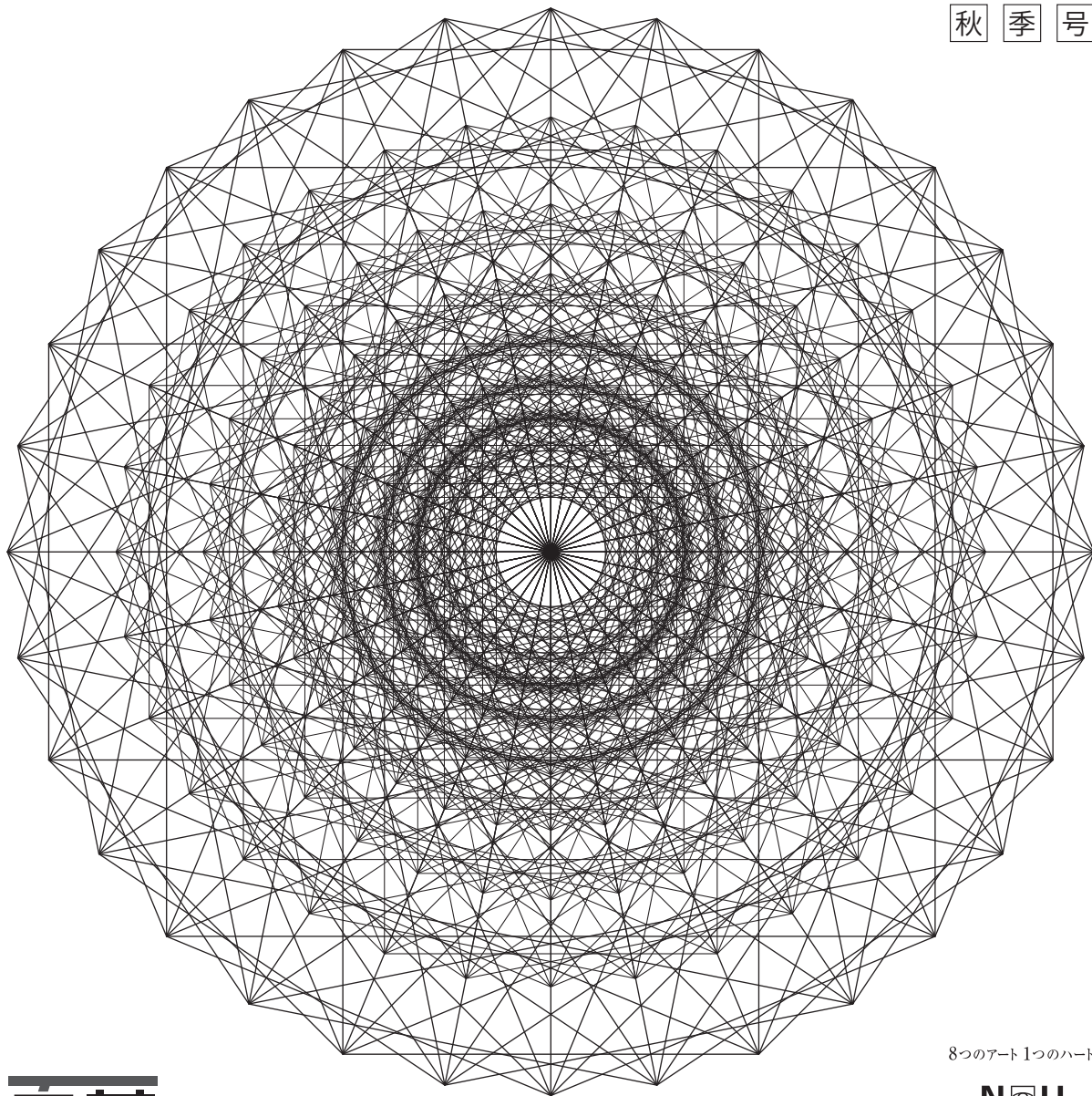
Alumni Association Report

日本大学芸術学部校友会報

103

2019

秋 季 号



百 藝

1921-創設100周年-2021
Nihon University College of Art

8つのアート1つのハート

N_U
Nihon University College of Art
Art

日本大学藝術学部

A decorative banner with a series of triangular flags. The flags have different patterns: some are solid black, some are white with black dots, some have black and white stripes, and one has a black heart on a white background. The banner is strung across the top of the page.

■日芸祭 デザイン

※お問い合わせ：みちのくマンガロード連絡協議会事務局
(石・森章太郎ふるさと記念館内) 0220-35-1099

／ 今年もやります！ ／

校友会カフェ ギャラリー



Open!



カフェ
&
交流ゾーン

☆
ビール ¥200
ソフトドリンクは無料




“写真で綴る”
江古田と
日藝の歴史

校友会員
作品
ギャラリー





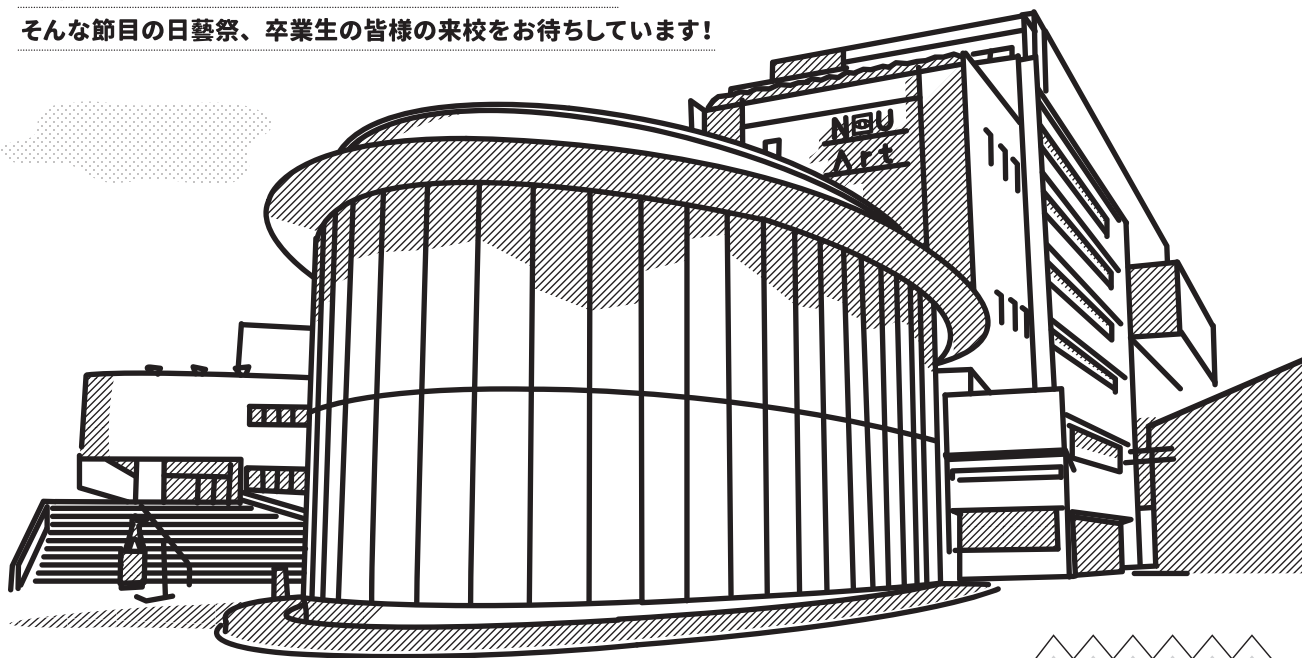

校友の
活動情報を
随時上映！


校友会カフェ 営業時間

11.2	土	10:00 ▶ 16:30	×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×
11.3	日・祝	10:00 ▶ 16:30	×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×・×
11.4	月	10:00 ▶ 16:00	

江古田校舎で 待っています

今年から30年ぶりの「全学年江古田修学」がスタート。
そんな節目の日藝祭、卒業生の皆様の来校をお待ちしています！



日藝祭

2019 11/2・3・4月
[令和元年] 土 日 祝



お車でのご来校は
ご遠慮ください。



7月13日(土)ホームカミングデイが開催されました

4月から30年振りの江古田通年化となり、新教室棟（A棟）が完成したことを機に令和元年7月13日（土）ホームカミングデーが開催された。

当日は校友による講演会、校内見学を中心としたホームカミングデーと校友会総会・懇親会が同日開催となった。

延べ500名超の校友たちが都内近郊だけでなく宮城、秋田、佐賀、福岡など遠方から足を運んでくださった。

準備期間が不十分で開催の告知方法や学部との連携など今後の課題を踏まえ、次回はよりご来校くださる校友たちが楽しめるイベントを計画・実施していきたい。



就職セミナー 株式会社ロボット

齋藤 力 氏

「踊る大捜査線2」（邦画興行収入No.1）などを製作した株式会社ROBOTの変遷と大ヒットした自社製作の映画・CM・プロモーションなどのエピソードを紹介。8Kなど先端技術をいち早く導入するなど、業界における位置付けも紹介。又、羽住英一郎監督（卒業生）から学生へ就職の心構えなどのビデオメッセージが紹介された。



イベントA ロボットデザイナー

松井龍哉氏 講演

ロボットデザインとは？「環境、空間、人の情報をロボットが自ら計算し、インタラクションに動作するその一連の動き全てをデザインすることである」という考え方を、ROBOCUPや世界最先端のロボット研究、同社が現在開発中の「Patin」、提唱されているムーブメント「IoT」などを具体例として紹介しながら解説された。



7月13日総会が開催されました

令和元年度日本大学芸術学部校友会総会が、ホームカミングデーの行われた7月13日(土) 午後5時より、今年竣工したA棟102教室にて開催された。

総会の冒頭、田上竣詞会長(放送S53)の挨拶に先立って、校友会活動の紹介として佐々木善朗副会長(放送S53) 制作による昨年秋の日藝祭からの活動紹介の映像が上映された。続いて、議長に長瀬浩明常任幹事(デザインS63)、副議長に青木敬士常任幹事(文芸H1)、書記に西垣仁美常任幹事(写真S58)を選出、議事に入った。議長より会則10条の1により会は成立する旨の報告があった。

平成30年度会務報告(川上央常任幹事・音楽H7)のあと、平成30年度会計報告(宮澤誠一常任幹事・映画S46)、会計監査報告(渡辺圭一監事・音楽S51)、令和元年度予算案審議(宮澤常任幹事)へと進み、いずれも拍手を持って承認された。その後、光野忠利佐賀江古田会会長(映画S40)の申請による、朝重利文氏(美術学科デザインコース在籍)の推薦校友申請が高橋則英副会長(写真S52)より提案され、原案通り拍手をもって承認された。またその他と

して、会長選出方法について意見が出されたが、2年前も同じ提案が行われ否決されたこともあり、審議の結果、本件を緊急動議として受理するかの採決を行い、賛成7名、反対55で否決された。

総会終了後、今年は大ホールにて懇親会が行われた。

司会進行は荻原伸之副会長(放送S57)が担当した。宮城江古田会の高橋咲千子氏(院H21)のピアノ伴奏、干場文夫石川江古田会事務局長(音楽S49)による日本大学校歌斉唱、田上会長の挨拶、来賓祝辞として木村政司名誉会長・芸術学部長(デザインS53)、古賀千春校友会本部事務局長校友課長のご挨拶があり、生田孔介芸術学部事務局長による乾杯で懇親会が始まった。途中、高橋咲千子氏によるピアノのミニ演奏会があり美しい音色に酔いしれた。また、昨年創立60周年を迎えた殺陣同志会の映像の上映などがあった。最後は各学科別と全体の集合写真撮影があった。

今年は例年より総会・懇親会の参加者が多く、大変盛り上がった。また芸術学部執行部・事務局課長職以上の皆さんにも出席して頂き楽しい時間を過ごした。



イベントB 松竹・歌舞伎座支配人 橋本芳孝氏 講演

松竹株式会社の創立と歌舞伎との関係を紹介。興行システムの改革により役者の収入が安定し、一般の人でもチケットが購入しやすくなったことなど、エンターテインメント企業としての成長を紹介。平成25年に歌舞伎座第5期の再開場迎え、街づくりや新しいものへ挑戦しつつ伝統的な古典の継承も加速させるという今後の展開も披露した。





卒業生ストーリー 「今、ここで。」

美術学科 1978年度卒業 安倍成孝

自宅前にて

**道立高校の美術教師を捨てて、イタリアに一人渡り彫刻を目指し、
白大理石の産地Carraraにアトリエを持ち、日々彫刻を彫る毎日だった私が、
今は日本の代表的な建築石材の仕事をすることに・・・**

CARRARA

私の住む町Fivizzanoは、アペニン山脈のふもと、緯度で言うと、北海道の士別町に位置し、町内の信号は県道にある一個のみ、エレベーター、エスカレーター地下鉄はありません。古くはFirenzeメディチ家の影響下にあり、その名前で呼ばれる城壁に囲まれた旧市街に住居があります。家そのものは17世紀の建造で、1世紀前の地震で改修されて、その改修後の姿を今に留めています。壁の厚さは50cmなので、建築面積と居住可能な面積には数十平米の差が出るのですが、この夏のヨーロッパの猛暑には、その壁が威力を発揮して、室内が25～6度程度で保たれるのです。地下の蔵は20度を少し超える程度しかありません。畑は自宅より5キロ離れたところに、数ヘクタールの土地があり、オリー

ブオイルは自作で、毎年100ℓ程出来るので、日本へのお土産にはこれが欠かせません。そして日本の野菜を育て、朝食はそれを使った、ぬか漬けと粕漬、そしてイタリア米を釜で炊き、北海道の昆布と枕崎の鰹節を削った味噌汁での朝食は欠かせません。

1981年にイタリアに来て38年、グローバル化とは無縁な生き方を今でも保っています。家内とはイタリアに来て3年後に知り合い、5年後に結婚して、8年後に長男が誕生しています。片道切符一人で日本を発ち、10年後には、青い目のイタリア人と息子を連れて、札幌の両親にその姿を見せに戻っています。その息子もイタリア人と結婚して、親子二代嫁さんがイタリア人で、三代目はまだなのですが、次第に子孫が日本の血を薄

くしていくことに心を痛めている所です。その息子はイタリアの大学を卒業後、ロンドンで修士課程を終えて、今は神谷町のイギリスの会社で働き、今年には川崎市麻生区の王禅寺近くに家を持ち、本気で日本で生き抜く感じです。会社は世界数十か国に現地法人を持ち、日本は200人程度。彼のチーム20数名の国籍が14か国で、彼は当然日本人にカウントされますが、社内は英語、家ではイタリア語、私とは日本語を自由にこなせる男です。

人生の半分以上を外国で暮らしてきて、日本は恋しいのですが、頻繁に行き来するので、恋しさも歪んで来て、何か中途半端なまま、飛行機に揺られて生きている感じです。今年法務局にマスターファイルの申請をして、出入国の全記録

を頂けるので、それが届けば、何往復してきたのか正確にわかりますが、間違いなく100往復以上になっているでしょう。マイレージの無い時代でANAの国際線も無い頃はJALを使っていて、それでANAのマイレージはとくに100万マイル超えている、ANAのお得意様になっています。

1979年の卒業後、幸せの黄色いハンカチ張での、道立高校の美術教師を捨てて、イタリアに一人渡り彫刻を目指し、白大理石の産地Carraraにアトリエを持ち、日々彫刻を彫る毎日だったのですが、その彫刻で日本と100往復が出来るはずがなく、今はイタリアの小さな建築石材の会社を持ち、その仕事で日本に行くことが出ています。日本の代表的な建築石材の仕事を多くこなしていて、広島原爆資料館の内部も外部も私が材料そのものを仕入れています。あべのハルカスや、京都フォーシーズンズホテル、六本木界限から丸の内周辺、そしてこの夏は、心齋橋の大丸の仕事で日本から戻ったばかりです。日本以外はフロリダのアルマーニカーザや、マカオのヴェルサーチェホテルを今やっていて、イタリア国内ではミラノのブラダ美術館も私の仕事です。現在、日本の某企業の迎賓館を建築中でして、それで今年も、行きは自作のオリーブオイルを持ち、帰りに味噌醬油を抱えて、百数十回目の国際線に乗ることになると思っています。

こんな人生になるきっかけは、1981年に、戻ることすら想像しないで、鉄砲玉みたいに、すっ飛んで行った事が始まりで、その鉄砲玉になった元は、不満の塊が張れ裂けて、その行き場がイタリアになったからでしょうね。その不満は日本そのものだったのか？日本の学校教育にあったのか？1979年の夕張には高校が



自宅から車で3-40分の所にあるピサの斜塔



自宅前で奥様と

4校あり、私の勤めた夕張南高校には、普通科以外に商業科が2クラスあり、炭鉱は衰退しても、数か所で稼働していた時代でした。山田洋二の映画のイメージと大差はありません。そこに新米教師、それも美術の教師で赴任したことから人生が変わったのでしょうか。その2年目には担任を持たされて、それも自分の生徒に美術の授業をしない商業科の担任で、日芸の体育系だった雰囲気では生徒指導部に抜擢され、クラブ顧問は、専門のスキー部に、当然美術部、更にボクシング同好会の顧問、最後にはこれで勝ったら甲子園もあった硬式野球部の部長を、生徒に

頼まれて、引き受けています。そして北海道の美術展に出品する作品を作り、スキースキーの全道選手権に出る為に、現役で競技スキーを続けて、夜一杯飲みに行けば、生徒が「先生いらっしゃ〜い!」と歓迎され、クラブに行けば、隣のおばさんが生徒の親だったり!高校売春の記事が新聞に出て、それを幹旋するのか、放課後はツッパリ車が校門の外で列をなし、警察からは生徒が万引きしたと電話が来て、引き取りに行き連れ帰った家には、母親が寝たきりで娘の帰りを待っていたりと、その全てを断ち切る事だったと感じています。

日 藝 に は 神 様 が い る ！

日本大学芸術学部 学部長

日本大学芸術学部 校友会 会長

木 村 政 司 × 田 上 竣 詞

田上校友会長（以下田上）：今日は、お時間を作って頂き有難うございました。

木村学部長（以下学部長）：いいえ、こちらこそ有難うございます。

田上：学部長と一緒に毎週、全国の江古田会懇親会に出席させて頂いております。学部長に於かれましては、忙しい中、ご参加いただき心より感謝申し上げます。

学部長：私も全国を廻り皆さんとお会いでき、とても良い刺激を受けています。

田上：それでは、インタビューをさせて頂きます。

唐突にご質問させていただきますが、校友会って学部長にとって何なのでしょう？

学部長：私も本学部出身です。だから、校友会員の一人としてインタビューを請けました。

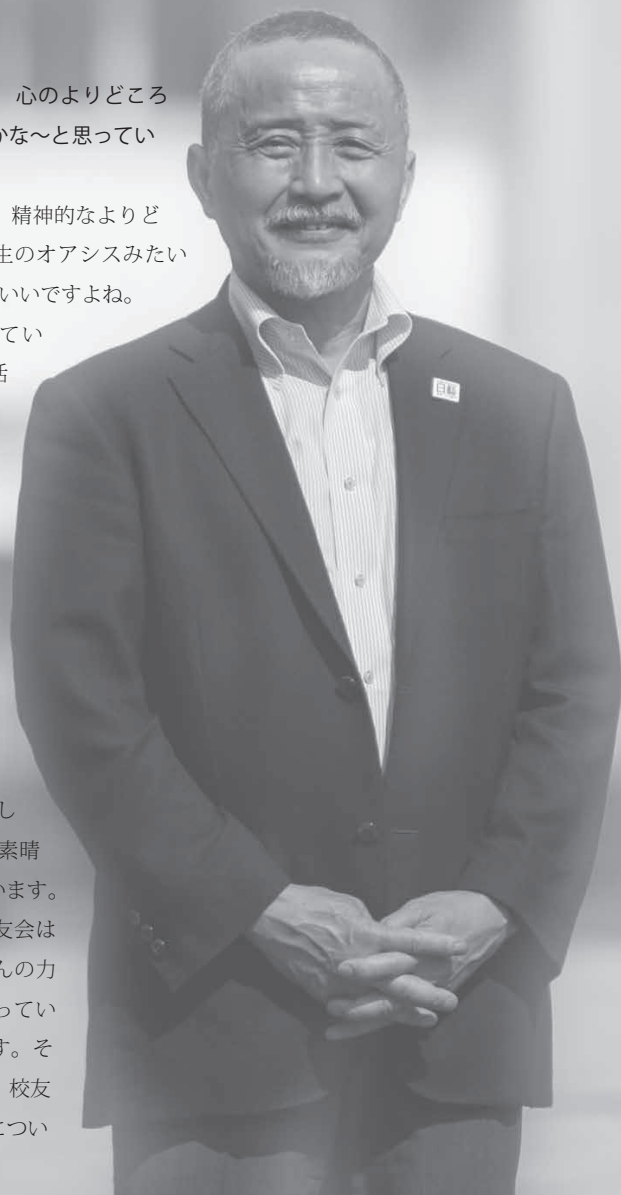
本学部の校友会は、校友会の意思によってどうにもできる。どうにもなっています。具体的には、人によっては心の拠り所。発展的ないい方だと学生のサポートが出来る、可能性を持った場所。提案や実行が出来るようなことに対しては、希望を育むことが出来る場所。地方の中・高校生に、芸術への可能性を育て、魅力を伝えることができる人たちが集う場所かな～

そういう意味では、心のよりどころという意味が強いかな～と思っています。

田上：そうですね！卒業生のオアシスみたいな、場所になればいいですね。

学部長にそう云っていただけると校友会活動をしている私たちにとってとても励みになります。

田上：次の質問をさせていただきます。各地の江古田会は自主性に富み、組織としては小さいけれど、頑張って自分たちの力で会を継続運営しています。それは素晴らしいことだと思います。一方、芸術学部校友会は学部教職員の皆さんの力を借りなければやっていけないのが現状です。そこで、質問ですが、校友会の組織の在り方について



てお聞きします。

組織的に見てまだまだ弱いのではないかと危惧していますが、どう思われますか？

学部長：全国を廻っていて思っていたのですが、とかく過去の話をする、昔の懐かしい話をする場所になっています。それは、それで意義のあることです。

私の理想ですが、校友会は未来のためにあると思っている。

学部としては、学生にフォーカスすることを第一に取り組むことが使命であると思っています、そう云っ

た意味では、校友会と学部の連携に取り組めたらという希望があります。

学部の思いと連携し創造して、何か形にしていけるような組織になることを願っています。

校友会は、芸術学部への想いを学部と連携して想像し、カタチにして行く事でしょう。

校友会のアート展はその一つの現れで、校友会に組織論・生産性を求めているいけないと思っています。

田上：学部長のお話を聞いて、思ったことは学部教職員の協力も必然で、皆も本学部出身なのだから、一

緒になって盛り上げていけば良いとゆうこと。

そして、もっと大切なものは組織を創るのではなく、情熱のある校友会員を増やす努力と姿勢が大切なのではないかと云う事ですね。

学部長：はい、独立性が必ずしもいいとは思っていません。飽くまでも芸術学部らしく仲良く。

結果への高みを目指すことが大切です。

田上：次の質問に入ります。今の校友会活動の運営に関わる質問です。

活動参加者がいつも同じメンバー、参加意識の低さ？また、参加人数が少ない？若者が少ない、若者が集まらない、との話をよく聞かれます。私もいつも悩んでいます、その点、如何ですか？

学部長：校友会だけの問題でなくその話は学部にも云えることでもあります。参加する方はいつも一緒、けれども、苦しんで、耐えて、諦めないこと。ホームカミングデーのように、今までにない企画をおこなうことによって、皆さんの自主的な参加意識を醸成することが必要だと思いますね。

田上：頑張っていればいつか参加者が増えその意識が若い人にも伝播することを信じる、未来に繋げて行くことなのですね。私も同感です。これからも諦めず頑張ります！元気が続く限り！（笑）

念願の江古田修学通年化が始まりました。その点について何かお聞かせいただけますか？

学部長：所沢校舎が残したものは、所沢で上手く育った学生たちです。平成の時代が所沢校舎を残したと云っていいでしょう。それは、当時大学が郊外にキャ



ンパスを持つ流れに乗っただけの事で、時代と共に所沢にキャンパスが存在しただけの事です。

時代のせいにする事なく、誰かのせいにする事なく、江古田での自主創造の未来を考え続ける、変わり続けることが大切なのではないですか。

田上：場所に拘らない、問題は人物をどれだけ育てられたかですね。深い話のように聞こえます。いや、本質的な話ですね。所沢で良かったこと、悪かった事は如何ですか？

学部長：良かったことは、キャンパスが広く、体育館もあり、グラウンドもあり、リラックスする場所も沢山あり、緑も豊であるし、キャンパスらしい！

田上：ですよ、青春を謳歌するためには、大学らしいキャンパスですよ。それでは、悪かったことは何なのでしょう。

学部長：お金がかかり過ぎた！（笑い）江古田の1キャンパスと所沢を入れた2キャンパスとでは経費が倍掛かった。しかも、所沢の駅から遠かった！所沢からバスで時間がかかり、やはり、学生にはとても不便を掛けましたね。学生にとって時間が貴重だから、通うために時間が

かかったこと。

それから、やはり上級生3年4年生と分断され、背中を見て学べなかった。

先輩に教えられることも沢山あるし、そのことは残念に思いました。

田上：30年は長かったですね。

学部長：歴代の学部長は所沢を守ってきた。そして、江古田に戻ることを計画した。時代の要求かもしれませんが、私はその意思を受け継ぎ、ワンキャンパスの江古田を実現しました。だから成功させなくてはなりません。

念願の江古田通年化がスタートした訳ですから、昔の江古田に戻るのではなく、新しい江古田を創造しなくてはなりません。その責任は重いと思います。

田上：新しくなった江古田キャンパス、大いに期待しております。

最後の質問をします。

日藝創設100周年を2021年に迎えます。今までの総括と云う訳ではありませんが、100年を振り返り、次の100年に対してお考えはございますか？

学部長：日藝創設100年、戦争もあり、日大闘争もあり激動の100年先人たちの丁寧な積み重ね、一言ではとても語れませんね。

次の100年は、変化に応じた変換が求められる。確固たるポリシーを持ったモノが生き残り、頑なな頑固さは自滅をたどる。つまり、次の100年はネクスト5年にフォーカスして変化に応じた変換が大切だと思っています。

田上：サイクルが短くなって、ますます時間の流れが速くなる、その流れに順応させて行くと云うことですね。

学部長：具体的に云うと、とんでもない時代を経験した先輩方が創り上げてくださった日藝ブランド。日藝には日藝の神様がいて、江古田に宿っていますよ。妖



怪もいますよ。だから、日藝で化けるというコンセプトを考えた訳です。

田上：えっ、日藝の神様ですか？なんか学部長、凄い話になってきましたが、会報に乗せて構いませんか？

学部長：全然かまいません。学生が、4年間ここで過ごしていると日藝生になっちゃうんですよ。

江古田は、風土とか伝統とか気迫に満ちている。私はここに居るだけで自然と育っちゃう、そう信じています。だから言葉ではなかなか表現できない。敢えて言うなら江古田の地に日藝の神様が降臨しているということですかね。アートとエンターテインメントの神様がね。

田上：興味深いお話をありがとうございました。

今日は凄く楽しいインタビューになりました。

最後に日藝には神様がいます！と云う事で本日のインタビューを終えます。

まとめ・田上竣詞

写真撮影・穴吹有希

録音録画・佐々木善朗

ふくしま江古田会

ふくしま江古田会の平成30年度総会が5月18日(土)、郡山市の三松会館に、木村政司学部長、田上峻詞校友会会長、日大校友会福島県支部の大越務幹事長をお招きし、会員19人が出席して開かれた。



会場には、3月28日に急逝した島崎恒夫会長と昨年12月に亡くなった五十嵐栄則会員の遺影が飾られ、出席者全員が一人ひとり献花したあと開会、冒頭で黙祷を捧げ、冥福を祈った。

挨拶にたった会長代行の吉田公之副会長は「島崎会長は平成21年にふくしま江古田会を立ち上げて以来、ほとんど一人で会の運営を担ってきた。今あるのは会長の強い思いと支えがあったから」とその功労をたたえ、悼んだ。そのうえでフクシマの復興をめざして続けてきたアート展の第4回を来年開催へ向け準備していくと述べた。議事では、決算報告や会則の一部変更が承認されたあと、任期満了による役員改選が行われ、新会長に吉田副会長(美術S39年度卒)が選任され、合わせて8人の役員も承認された。

引き続き行われた懇親会では、木村学部長が令和に入り全国で初めての支部総会と前置きし、「芸術学部では100円朝食をはじめたり、学食を値下げするなど食改革も進めている。学部の全学生が江古田の地で学んでおり、かつての江古田に戻ってきた。再スタートした新生江古田を応援してほしい」と挨拶。また、田上校友会会長は「校友会が新体制になり3年目を迎えた。在学生に校友会の存在を知ってもらうよう働きかける」と語った。このあと乾杯、歓談に入り、会場では盃を重ねながら和気あいあい親交を深める光景が見られた。1分スピーチでは近況報告や江古田時代の思い出を3分以上も話す会員もいて、あっという間に楽しい時間が過ぎ、最後は全員で輪になって校歌を斉唱、お開きとなった。

(熊耳康昌 映画S38年度卒)

福岡江古田会

5月なのに30度近い夏日が続く5月25日、木村学部長、田上校友会会長と九州各江古田支部長を招き総勢19名で福岡江古田会の総会を開催しました。例年だとアート展と総会は同時期に行うことになっていましたが、別々の日程になりました。



この校友会報がお手元に届く頃は、終了していると思いますが10月3日～8日福岡江古田会アート展をアジア美術館で開催します。木村学部長をはじめ九州の各江古田支部の応援のもとに絵画・写真・書・彫刻など約100点、26名が出展します。



裏辻恵康 写真S43年度卒(出展)

交番のお巡りさんが木暮実千代を見かけ「お寄りになりませんか」と声をかけると気軽に交番に入り、お巡りさん達にサインまでした



という下関に伝わるエピソード。戦前・戦後の日本映画の全

毎日が本番



盛期を支えた大スターで、日芸の大先輩・木暮実千代さん。このエピソードをもとに、演劇学科S33年度卒の石原忠夫さん作・演出の朗読劇「毎日が本番」を10月5日に上演しました。

朗読劇と作品展示のコラボのアート展。以前から展示会だけでなくもっと色々輪を広げたいと思っていたアート展。今回の企画が吉と出るか凶と出るか。昨日もアジア美術館の担当者と打合わせしました。心配と不安と楽しみが入り混じる日々です。

(飛嶋慶一 写真S44年度卒)

佐賀江古田会

第18回の佐賀江古田祭り(芸術学部校友会佐賀県支部総会)を、5月26日(日)、佐賀市の旅館「あけぼの」で行いました。

総会には木村学部長、田上校友会会長、熊本江古田会の奥村前会長と川村さん、福岡江古田会の飛島会長、鹿児島江古田会の堀之内さん、そして



10名の会員が集まり賑やかに開催することが出来ました。

佐賀の毎年の目標は、新規会員の発掘。今年

も光野会長の尽力により2名が顔を出してくれました。それぞれが近況や江古田時代の楽しい思い出話を語り、出席者も、暫し江古田の懐かしい時代へタイムスリップ。佐賀の夜は更けていきました。

内一人の朝重利文(旧姓：滝口)さんからのメッセージを紹介します。朝重さんは、佐賀県芸術文化賞や国内での数々のデザイン賞を受賞。故郷の焼物の里・有田町にスタジオを開設、精力的に活動中です。

■お世話になります。

朝重利文(旧姓：滝口)

憧れの日本大学芸術学部に入学したのは昭和51年の春でした。当時、太田裕美の「木綿のハンカチーフ」が流行っていて、その歌と自分を重ねながら夢膨らませて上京しました。目的は日芸で学び将来はグラフィックデザイナーになることでした。授業では、グラフィック、タイポグラフィ、プロダクト、インテリア等を強烈な個性の専任の先生方から学び実技にのめり込んでいきました。授業には出ず勝手に自分専用の実習部屋を廊下に作り、各先生方が薦めるデザインコンペに出品するという日々が続きました。結局大学は卒業できずに終わりましたが、現在はお陰様でグラフィックから建築までを行っています、これからもいろいろな仕事に挑戦して100歳まで現役でいたいと思っています。

また今回、木村学部長、田上校友会会長をはじめ多くの日芸出身の方々とお会いできたのは、大きな喜びと人生の励みになりました。

土井 洋(写真S48年度卒)



宮崎江古田会

第20回宮崎江古田会が令和元年6月8日(土曜)に宮崎市のふるさと料理「杉の子」桃太郎の間で開催され、県内より9名の校友が集まりました。

総会は長嶺宣幸副会長(放送S53年度卒)の進行で始まり、米倉史朗事務局長(写真S52年度卒)より平成30年度の会計報告、令和元年度の予算の説明があり、会計監査の和田昌弘氏(放送S60年度卒)から認証、全員拍手を持って承認され滞りなく総会は修了しました。

記念撮影の後、懇親会では来賓として木村政司学部長、校友会から田上峻詞校友会会長、そして鹿児島江古田会より羽山貴浩氏、宮崎日本大学高等学校教頭の山内史明氏もご出席を賜り来賓4名校友9名計13名で開催されました。始めに後藤会長からの挨拶後、木村政司学部長からは令和元年7月13日に新しくなった日芸を皆さんに見ていただく為のホームカミングデイ、また来年3月28日には盛大に日芸創立100周年を祝う計画を創立当時の話と共に紹介頂きました。

東治男氏(放送S42年度卒)の乾杯の後、杉の子女将より貴重な焼酎「魔王」がプレゼントされビックリ、美酒で存分に喉を潤し、盛会となりました。また、恒例のビンゴゲームもあり、なかなかの盛況で語りつきなく終演。

最後に和田昌弘氏(放送S60年度卒)の万歳三唱でとどろりなく終了。暖かな懇談会でお開きとなりました。

話の尽きない面々はその後も二次会へ続き、親睦を深め合いながら大いに盛り上がりました。暫し日芸で過ごした青春時代にフッと戻った時間でありました!!



宮崎江古田会会長 後藤欣久(美術S44年度卒)

山形江古田会

周りの山々が新緑に輝き、「さくらんぼ」の収穫が本格的になるうとしている山形市で、芸術学部校友会山形県支部(山形江古田会)令和元年度総会を6月8日(土)山形グランドホテルで開催しました。

司会進行は、秋葉寛(文芸S53年度卒)幹事です。来賓として、川上央芸術学部学部次長、田中光子芸術学部校友会副会長、黒沼美秋日本大学校友会山形県支部幹事長、渡部正信日本大学山形高等学校教頭の方々をお招きしました。会員14名の参加と、卒業生父母3名の参加もあり、賑やかに開会しました。来賓祝辞と紹介に続き、事業・会務報告、会計決算報告が木嶋正英(美術S54年度卒)幹事よりあり、監査報告が沼澤美喜子(音楽S57年度卒)監事よりあり、共に承認されました。その後、事業・会務計画案、予算案が承認され、総会は例年通り迅速に閉会しました。

引き続き、同会場で皆さんお待ちかねの懇親会が開会です。来賓祝辞と続き、渡部正信日本大学山形高等学校教頭の乾杯の音頭で懇親に入りました。世代を越えた「日藝」の強いつなかりに「江古田」の街への思いが重なり、温かい会場になりました。平成年度卒業の会員参加も増えて、楽しく、明るく、元気よく、会は進行了しました。時間の速さを感じながら、須藤一之(放送H2年度卒)前幹事長の「山形花笠締め」で中締め閉会となり、井澤聡(放送S62年度卒)幹事長の絶妙な司会により、たいへん盛り上がりながらもちょうど良い時間に収まりました。

今年も又、ほとんどの参加者が二次会へと進みました。そして三次会へと、熱く、温かい山形の夜は更け、やがて日付は変わってゆきました。



支部長 横倉 晋也(美術S52年度卒)

宮城江古田会

■設立31年目となる宮城江古田会の総会は、6月22日仙台市の「ピアノサロン・ルフラン」にて、木村学部長、田上校友会会長、渡辺校友会宮城県副支部長、国分岩手江古田会会長をお招きし、総勢21人で盛大に開催されました。総会は順調に運び、会計報告・予算



算等が承認されました。その後の懇親会で各人から近況報告がありました。その中から2つの話題です。

■放送学科を卒業しクライアントになるべく一般企業に就職したのが30年前。新卒は全国に配属されます。学友と疎遠になるとなかなか会えないものです。以来、転職し東北在住となり友人と会うことは諦めていました。そんな折、今年の一月に息子の高校の吹奏楽定期演奏会で「日芸コンサート」のチラシを見つけました。「日本芸能協会かな」と思いながら手に取ると、日大芸術学部ではないですか?!早速、事務局に連絡を取ると新年会にお招き頂きました。そして、今日まで素晴らしい諸先輩にお会いし、家族を守る緊張した生活が途端に朗らかになりました。大学の校歌を年代を超えた学友と歌える喜びを噛み締めております。ご縁に感謝して毎日を楽しんでおります。(森廣孝志 放送S63年度卒)



■6月29日、仙台の町にある自家焙煎の美味しい珈琲のお店「坐カフェ」にて出版記念ライブを行いました。第1部はトークライブ、第2部はピアノ弾き舞石美和さん(音楽H3年度卒)との朗読ライブで、アットホームで楽しさ満点のココロに残る貴重な時間となりました。出版記念展(6/22〜7/22)も同店で開催。40代の総



まとめ作品集「さとうのつめあわせ〜まったりこってり黒糖風味〜」(ポエムピース発行・松崎義行社長は放送S63年度卒)よろしくお祈りします!

(佐藤 円 放送H4年度卒)

■岡山江古田会は2014年に発足しました。会員は写真・文芸・美術・放送・映画・演劇のOBで構成されています。2013年から有志による作品展を開催し好評を得た勢いで毎年一回、今年は6月に第7回が終了しました。今回から日舞コースの動画を会員の活動の一環としてブースで紹介しました。

殆どが写真展示の中、彫刻・俳句・CG作品などもあり毎年楽しみにご来場頂いている皆様に喜んで頂けたと自負しています。それは地元新聞社の山陽新聞や今年は山陽放送テレビニュース、リビング新聞社にも取り上げられたお陰であると思います。



搬入日参加メンバーと会場風景

■年間行事としては上記作品展の他、総会と親睦会(と言う名のほぼ飲み会)ですが、毎回十数名程の参加者で盛り上がります。今秋、開催予定の総会(日程未定)には学部長・校友会長のご参加をお待ちしています。



2019年作品展打ち上げ

■実は年々高齢化し、体調不良で実質の活動が出来ないメンバーも出てくるのは仕方ないとして、若手の参入を促す工夫はないものかと思案中、良い案がございましたらご指導ください。

(岡山江古田会支部長 竹本栄吉 写真S51年度卒)

熊本江古田会から政治家誕生！

34回目の熊本江古田会総会は7月20日(土)に開きました。

熊本ではここ数年7月第一土曜日に総会を開催していましたが、いろいろな事情で三週目の20日に変更しました。それに梅雨明けしているだろうとの思いもありましたが、その日は大雨警報が出るなど、まさに「足元のお悪い中…」での開催になりました。

それでも木村学部長、田上校友会長など来賓、会員あわせて27人の出席をいただきました。会場はこれまでのホテルから老舗の中華料理店に変えて開き「やっぱ、味はヨカバイ」と好評で総会、懇親会もいつものように盛り上がりしました。

また今年は役員改選期で、穀本会長の後を私、奥村が再び引き継ぐことになりました。

ところで会員にとって嬉しいニュースが。熊本江古田会から4月に熊本市議会議員が誕生しました。当選したのは熊本でイベントプランナーとして活躍している放送学科H6年度卒の荒川慎太郎さん(46) 荒川さんは定数10の熊本北区選挙区に出馬、7番目で見事当選。政令市になった熊本市は前回選挙から区ごとの選挙に変わりましたが、なんと北区は無投票。荒川さんはすべてのデータがないなか地域、同窓会の人たちなどの応援を受けながら苦しい選挙戦を戦い抜き、見事当選しました。この日の総会で荒川さんは会員の応援に感謝しながら「大学の芸祭とか実習で培ったやわらかいイベント屋の発想が何か役に立つのではと思い立候補した。これから熊本市が楽しく平和に暮らせるようにと思って頑張っています」とあいさつ。荒川さんには副会長に就任していただきました。

来年、熊本江古田会は創立35周年を迎えます。これまで5年ごとに記念展を開いていますので来年も実施することで計画を進めています。各地江古田会の皆様のご協力もよろしくお願いします。

それから熊本江古田会としてもう一つご報告が、日大校友会熊本県支部は今年100周年を迎え、8月24日(土)に記念総会が開かれました。この中で毎年実施されている校友講話にバルセロナオリンピック水泳、金メダリストの岩崎恭子さんを招き、楽しい話を聞くことができました。今回岩崎さんをお招きできたのは田上校友会長のご尽力によるもので、日大校友会の中でも江古田会の株が上がりました。本当にありがとうございました。また県校友会の100周年記念誌発行のために江古田会メンバーが撮影に動きまわり、また司会も江古田会のメンバーが務めました。

奥村隆志(写真S43年度卒)

北海道江古田会

平成31年度の北海道江古田会総会・懇親会が、7月27日(土)午後6時から、札幌東急REIホテルにおいて、会員、来賓、合わせて21名が出席して盛大に開催されました。

芸術学部からは、木村政司学部長、田上峻詞校友会会長をはじめ、道内日大の各支部長の出席をいただきました。

総会では、氏家支部長が挨拶した後、牧議長のもと、総会が進められ、大神事務局長より諸案が説明され、満場一致で承認されました。

成田フォトサービスの記念写真撮影の後、57年放送学科入学の大神政敏事務局長の総司会により、懇親会が始まりました。

来賓挨拶では、田上峻詞会長より校友会の現状について、木村政司学部長からは、芸術学部の取り組みや現状などについて、お話をいただいた後、続いて乾杯の音頭で宴会が始まりました。

宴会では、去年に引き続き、原俊彰幹事のすばらしい手品ショーが繰り広げられ、会場は大いに盛り上がりしました。

ビンゴゲームでは、高額商品券や、ワイン、食事券など豪華景品に加え、札幌テレビ放送グッズなどが、出席者全員に商品が当たりました。

また、毎年評価の高い、素晴らしい校歌斉唱も披露されました。

楽しい時間は、瞬く間に過ぎ、札幌日本大学学園理事長の、浅利剛之様の締め乾杯で、お開きとなりました。

年々、参加者が少なくなりますが、また来年、元気で皆様と再会できることを楽しみに願っています。



鹿児島江古田会

■鹿児島江古田会の令和元年度総会を8月10日(土)に、鹿児島市の寿庵で開催いたしました。

来賓として芸術学部より、木村政司学部長、校友会から田上峻詞会長、さらに福岡江古田会より山田重寿会長、佐賀江古田会から光野忠利会長、熊本江古田会から川村晃生事務局長にご出席いただき、盛大な会となりました。



総会では中野順会長のあいさつに始まり、平成30年度の会計報告などを行ったあとは、お待ちかねの懇親会。尾前喜八郎先輩(美術S39年度卒)の



乾杯でスタートすると、来賓の方々、鹿児島の会員の分け隔てなく、江古田、所沢の昔話に花が咲きました。また、会合の中で、芸術学部の卒業生、加藤ジュンコさんを鹿児島に招いて開催する、「カンツォーネと美食の宴」実施が発表されました。

■本年5月、鹿児島中央駅前で開催された「ナポリ祭」。こちらに映画学科の卒業生、加藤ジュンコさんが出演して、イタリアの風を感じられるようなカンツォーネを披露しました。10月27日(日)に、鹿児島江古田会では、「カンツォーネと美食の宴」を開催します。日本とイタリアを往復しながら各地で公演、テレビ出演、歌唱指導など幅広く活躍されている加藤さんの歌声と、日本のナポリとも言われる桜島、錦江湾の風景、さらに絶品イタリアンを堪能できるイベントです。問い合わせはTEL070-2388-0848(事務局)まで。



■俳優の西田聖志郎先輩(演劇S52年度卒)が企画原案を務める映画「大綱引の恋」(2021年5月全国公開予定)の撮影が始まりました。薩摩川内市の一大行事「川内大綱引」に青春をかける青年と飫島の診療所に勤務する韓国人研修医の切ない恋や家族模様を描く感動作。監督は佐々部清、主演は三浦貴大、ヒロインは知英。映画の支援、協賛を募集中です。詳しくは(株)パディハウス TEL 090-8511-9906まで。

芸術地獄の始まりだ



at Nihon University College of Art
2019.11.2,3,4 (Sat-Mon)

日芸祭では、自分たちの専攻に関する

日々の成果を展示したり、

舞台上で披露したりしています。

今年の特徴は、新しいことに挑戦し

みんなを巻き込んでいく日芸祭であることです。

全学年統合により多くに学生たちが一堂に会します。

今年は例年以上に新しい試みをやっていたり、

ステージ企画も毎年出ているサークルとは

違う団体が出てきたりと

オープニングからフィナーレまで見どころ沢山です。

日芸祭史上最大規模のお祭りにします！

日芸祭本部実行委員会委員長 庄司伊玖麻

ウンレン・ブンレン

運動部連盟・文化部連盟 ただ今活動中

運動部連盟

- 合気道部
- 剛柔流空手道部
- 剣道部
- 戦遊部
- 徒歩旅行部
- バスケットボール部
- バドミントン部
- バレーボール部

文化部連盟

- オーディオ無線研究会
- 軽音楽部
- 珈琲研究会
- コスプレ研究会 COMPLEX
- 殺陣同志会
- 旅の会“群”
- 釣会
- 熱血漫画根性会
- フォークソング倶楽部
- B. D. C演劇映画放送研究会
- マジック研究会
- ミュージカル研究会
- 落語研究会

運動部連盟 合気道部

現在、我が合気道部では週3回江古田キャンパスの道場にて稽古を行なっています。そのうち1回は、本部道場から指導員の先生が教えに来て下さいます。部員数は男子6名、女子8名で和気藹々と活動しております。

1年を通して、春には新入生歓迎会やバーベキュー、夏には合宿、秋には芸祭での演武や屋台出店、幹部交代式などイベントも様々です。

芸術学部らしい自由でのびのびとした発想を合気道の中に落とし込み、日々切磋琢磨しております。

合気道部 第55代 主将 松本光正



文化部連盟 歌舞伎・舞踊研究会

「歌舞伎・舞踊研究会」は1965年4月、芸術学部文化部連盟所属の課外活動として発足しました。その前身となったのは、故・内海繁太郎教授が終戦直後に創設した法文学部のサークル「国劇研究会」と、さらにこれを受けて芸術学部演劇学科設立と同時に発足した「国劇コース」で、半世紀以上の長きにわたり『日大歌舞伎』の名で親しまれてきましたが、会員数の減少を理由に2017年3月をもってその活動を終了しました。2019年7月にはOB有志による学外公演が行われ、部会解散を惜しむ観客を魅了しました。





写真学科

■写真学科創設80周年

写真学科は1939年に誕生しました。その後1989年から30年間、所沢と江古田という2校舎体制でした。そして本年、江古田通年化という記念すべき年に、写真学科は創設80周年を迎えました。江古田校舎で4学年が同時に学ぶ、すなわち低学年から高学年の学生の作品を日常的に目にすることができる、あるいはより多くの交流を持てるなど多学年が同時に学ぶメリットを生かすよう、各先生が試行錯誤しカリキュラムや授業方法を検討し、より有効な教育に努めています。また写真学科では、教育の一環としてオリジナル作品をとおり葉の写真の力強さや美しさを伝えていくことを大事にしてきました。1972年以来収集してきた古今東西のオリジナルプリント・コレクションの中から、5月には銀塩のストレート写真が芸術作品として確立していく過程で重要な8名の写真家による写真学科創設80周年記念「ファインプリントの伝統-20世紀のアメリカの写真-」を芸術資料館で開催しました。



■今後の写真展、イベント等

10月29日～11月29日は芸術資料館において写真学科卒業生の若い写真家による写真展「フォトグラフィティ3」を開催します。今坂庸二郎、今城純、小野淳也、小澤太一、佐藤大史、高橋智史、竹見脩吾、中村卓哉、濱田祐史、細倉真弓、村上悠太の出演です。また同時開催で、昨年第43回木村伊兵衛賞を受賞した藤岡亜弥「川はゆく」(写真左) および今年第38回土門拳賞を受賞した高橋智史「RESISTANCE カンボジア 屈せざる人びとの願い」(写真右)から抜粋作品による展示を学科ギャラリーで行います。開催期間中には在学生の写真展を多数行う日芸祭(11月2日～4日)もあります。11月19日～25日は「日本大学芸術学部写真学科気鋭学生写真展 出てこい新人8」をニコンプラザ新宿 THE GALLERY1で開催します。続いて12月6日～12日は甲田謙一、田中里実、服部一人、穴吹有希の4名の教員による「SKY II」を昨年に引き続きソニーイメージングギャラリー銀座で開催します。あわせてご高覧いただければ幸いです。写真展の詳細および直近情報等の詳細は日本大学芸術学部ホームページ、写真学科公式Facebook/Twitterをご覧ください。



映画学科

■「フォーカスイン'2019」開催

平成30年度卒業制作、映画演出Ⅲ／映画技術Ⅲによる作品上映会「フォーカスイン'2019」が、令和元年6月24日～6月25日、6月27日～6月30日の計6日間、江古田校舎東棟EB-2教室で行なわれました。卒業制作30作品、映画演出Ⅲ／映画技術Ⅲは32作品が上映され、多くの観客が来場し盛況のうちに幕を閉じました。



■令和元年度オープンキャンパス

令和元年度のオープンキャンパスは6月23日(日)に江古田校舎で行なわれました。映画学科の企画では、卒業制作や映画演出Ⅲ／技術Ⅲの実習作品上映会、映画学科施設見学ツアー、映像表現・理論コースの説明会、進学相談を行いました。多くの受験生が来校し、映画学科企画に参加しました。

■令和元年10月26日、43年間主に撮影機材・映写の指導を担当されていた榎弘技術員、令和2年1月15日には、40年間フィルム現像の指導を担当されていた石田基貴技術員が定年を迎えられます。また、令和2年3月31日、48年間制作・演出・編集の指導をされていた宮澤誠一教授が定年を迎えられます。お三方の長年に渡る心温まるご指導に感謝申し上げますとともに、末永くご健勝で過ごされることをご祈念申し上げます。



美術学科

■渡部仁美さん「第6回未来展—美大の競演」特別賞受賞

8校の美大が参加し、美術教育の現場、画廊、愛好家が一体となり、未来の作家を育成することを目的とした、推薦制、コンクール形式の「第6回未来展—美大の競演」が銀座、日動画廊にて7月29日から8月8日まで開催された。日藝からは福島唯史教授（'89年絵画卒）が実行委員、選考委員として携わり、石井萌々子さん（'15年絵画卒）、'17年院造形専攻修、金子貴富さん（'18年絵画卒、院造形専攻2年在学）、宮田みな美さん（'16年絵画卒）、渡部仁美さん（'16年院造形専攻修）が出品。一般愛好家による最多得票作家に授与される特別賞には渡部仁美さんが選ばれた。



渡部仁美《邂逅相遇》油彩・アクリル 91×116.7cm

■『蟻魔君は魔法使い—伝子れんぢー』がKADOKAWAから刊行
 版画専攻3年在学生の漫画「蟻魔君は魔法使い—伝子れんぢー」がKADOKAWAから刊行されました。「スーパーチートな魔法使いDK（男子高校生）登場!!ある日、転校生としてやってきた超有名な蟻魔君。彼は本物の魔法使いとして全世界に認められた男だった!」という物語。これからどんな展開になるか?期待の新人。

■稔りゆく自然、移りゆくアート—日本とメキシコ版画交流—

アート教育プロジェクト 学部長指定研究において大地、空気、色彩をテーマにプリンティング・アートの展覧会が開催されます。
 会期10月11日～11月30日 会場 星と森の詩美術館（新潟）

URL <http://www.hoshi-uta-m.jp>



音楽学科

■令和元年度 音楽学科冬期受験準備講習会

令和元年12月27日（金）・28日（土）に開催いたします。
 校友会員の皆様のお知り合いを、ぜひご紹介ください。

■令和元年度音楽学科演奏会は下記の通りです。いずれも入場料無料ですので気軽にお越しください。

●第31回ウインドオーケストラ定期演奏会

令和元年11月26日（火） 18時30分開場／19時00分開演

於：練馬文化センター大ホール

<演奏曲目>P.スパーク／祝典の為の音楽 他

○指揮：稲川榮一

○演奏：日本大学芸術学部音楽学科ウインドオーケストラ

●第50回オペラ公演

令和元年12月17日（火） 18時00分開場／18時30分開演

於：練馬文化センター小ホール

<演奏曲目>G.パイジェッロ／歌劇「ニーナ」

ハイライト原語上演 ○指揮：江上孝則 ○演出：岩田達宗

●第48回ピアノコンサート

令和元年11月22日（金） 16時30分開場／17時00分開演

於：練馬文化センター小ホール

●第130回定期演奏会

令和元年12月19日（木） 18時30分開場／19時00分開演

於：品川区立総合区民会館 きゅりあん 大ホール

<演奏曲目>リムスキー＝コルサコフ／シェヘラザード 他

○指揮：矢崎彦太郎 ○管弦楽：日本大学芸術学部管弦楽団

●第40回新作室内楽の会

令和元年12月24日（火） 開演時間未定

於：芸術学部 音楽小ホール

●令和元年度大学院修了演奏会

令和2年3月12日（木） 18時00分開演（予定）

於：練馬文化センター小ホール

●令和元年度卒業演奏会

令和2年3月18日（水） 17時30分開場／18時00分開演

於：練馬文化センター小ホール

●SWITCH2020

令和2年3月21日（土）・22日（日） 開演時間未定

於：芸術学部 音楽小ホール他



文芸学科

■村田椰融さん「妻、小学生になる。」を刊行

平成21年度卒の村田椰融さんが、芳文社から、漫画「妻、小学生になる。」を刊行しました。小学生の女の子が、自分は10年前に他界した妻だと言って訪ねてくる。そして、小学生の姿をした妻との人生が再び動き始める物語。2018年11月にWeb上のニコニコ漫画で公式お気に入り部門1位を獲得するなど好評を博しています。現在、2巻まで刊行中。



■御前れいじさん『ゲッサン』新人賞佳作受賞

御前れいじさん(伊東百恵さん・文芸4年)が、『ゲッサン 6月号』(小学館 2019年5月11日発売)にて、新人賞佳作を受賞しマンガ家デビューを果たしました。作品名は「まあや」です。

■「第30回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」を受賞！

文芸創作実習Ⅰ(浅沼先生)受講者6名の作品が、「第30回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」の各賞を受賞しました。

【佳作特別賞】

坂本 沙季 空の手にヒカリを誘う秋刀魚かな
土屋 太樹 枯枝でオーケストラの指揮をとる
藤本 晴香 あいまいなままの旅程や夏帽子
水庭 真美 鶏にやるほうれん草をきざむ朝

【佳作】

岡嶋 晴香 緑の音はだして刻むワルツかな
小島 優奈 星つなぎ父と探した天の川



演劇学科

■受賞のお知らせ

□新進気鋭の洋舞界の若手ダンサーを顕彰する「第25回中川鋭之助賞」(東京新聞制定)を、木原浩太さん(平成22年度卒)が受賞しました。おめでとうございます。

□次代を担う日本舞踊家を顕彰する「第3回日本舞踊新鋭賞」(東京新聞制定)を、花柳幸舞音さん(阪涼子さん・平成14年度卒)が受賞しました。おめでとうございます。

■後期実習発表のご案内

2019年度後期の舞台発表の日程が下記の通り決定致しました。演目・開演時間などの詳細は決定次第演劇学科ホームページでお知らせ致します。

いずれも入場無料ですが、要予約となっております。お申込はホームページまで。

会場はいずれも江古田校舎・中ホール

▽総合実習ⅢB(3,4年洋舞) 10月18日(金)~19日(土)

▽総合実習ⅡC(3年日舞) 10月25日(金)~26日(土)

▽総合実習ⅠB(2年洋舞) 11月15日(金)~16日(土)

▽総合実習ⅠC(2年日舞) 11月23日(土・祝)

▽卒業制作(日舞) 11月30日(土)~12月1日(日)

▽卒業制作(洋舞) 12月7日(土)~8日(日)

▽卒業制作(演劇) 12月20日(金)~22日(日)

▽総合実習ⅢA(3年演劇) 3月20日(金・祝)~22日(日)





放 送 学 科

■卒業生がギャラクシー賞受賞

TBSグローディア所属の福田展大さん(H22年度卒)と刈屋瑛子さん(H21年度卒)が制作したラジオ番組「TBSラジオ年末交通情報〜おまけ付き〜」が第56回ギャラクシー賞ラジオ部門で優秀賞を受賞しました。日常的に放送されている交通情報の裏側をドキュメンタリーのパロディ風に構成した異色作で、テンポのよい演出が高く評価されました。

■中学生のための「情報番組制作ワークショップ」

放送学科と練馬区が共同して実施している情報教育推進事業“中学生のための「情報番組制作ワークショップ」”が今年も開催されました。

第10回目の節目となった今回は、練馬区在住の中学生15名が集まり、放送学科主任・鈴木康弘教授の指導のもと9日間に渡って行われ、情報番組を制作しました。

このワークショップは、企画立案から完成までを中学生たちが実際に取り組むことで、メディア・リテラシーを学び、職業体験を行うことを目的としています。8月7日には完成作品の上映会と鈴木教授の講演会が行われました。



8月6日に行われた本番収録の様子

■石川県小松市立高校で合同体験授業

石川県小松市と包括連携協定を締結した芸術学部が、第一弾の事業として8月20日と21日の2日間、小松市立高校芸術コースの学生約40名を対象に、合同授業を行いました。

放送学科からは授業統括責任者として星野裕教授が参加し、「スマートフォンでカッコイイ動画を撮る」ワークショップを安部裕准教授が担当しました。



デ ザ イ ン 学 科

■デザイン学科の専任教員に若原一貴先生が就任

これまで非常勤の講師として建築デザインの座学を担当されてきた若原一貴先生(H5年度卒)が4月からデザイン学科の准教授となり、1年次の基礎デザイン教育から2年次以降の建築デザインの専門科目に至るまで指導されることになりました。若原先生は本学を卒業後に建築設計事務所を経て独立。建築家として数々の住宅の設計を手掛け、その作品の中には建築賞を受賞したものも多数あります。特に狭小住宅を得意としていて、このほど自身の作品を通じて建築家としての仕事の流儀を綴った本『小さな家を建てる』を出版されたばかりです。これまでの経験を生かし、自身の建築哲学で後進の育成に力を発揮されるものと期待されています。



■「日藝とバウハウス100年」企画展を開催

バウハウス設立100年を記念して「日芸とバウハウス100年」企画展を開催しました。日藝デザイン学科のデザイン教育の礎はバウハウスで学んだ山脇巖先生(日本大学名誉教授)の方針であり、日藝を語る時にバウハウスの存在は外せません。そこでバウハウス100年にちなみ、江古田校舎の2会場で企画展を開催しました。

[第1会場]芸術資料館 10/1(火)～10/25(金)

・バウハウスに学んだ山脇巖の足跡(山脇巖の作品展)

[第2会場]A&Dギャラリー 10/7(月)～10/26(土)

・本学科関係者や卒業生によるバウハウスへのオマージュ

■横山奈菜さん(デザイン学科3年)がKis-My-Ft2のCDジャケットのデザインを制作

avex traxから2019年7月10日発売されたKis-My-Ft2「HANDS UP」のCDジャケットのデザインを横山奈菜さんが手掛けました。これは株式会社マリブさんの企画協力のもと、仕上がったものです。コンペ形式で募集があり、横山さんの案とプロのデザイナー案を融合させて出来上がったものです。

江古田通年化及び新棟建設に
関した芸術学部へ寄付

7月13日の総会にて承認された令和元
年度の予算にありますように、江古田
通年化及び新棟建設に關した芸術学部
へ下記の寄付を致しました。

- 大ホール棟学部 100 年史パネル
- 図書館入口のウォーターサーバー
- 中庭舞台の投影スクリーン（予定）
- 食堂 LED 照明セット（昨年度実施）



「日藝の卒博」のお知らせ

令和2年3月15日(日)～22日(日)まで
8つの学科の卒業成果物を江古田キャン
パス全体で博覧会として総合的にご
覧いただいております。一般公開して
おりますので、校友の皆様もぜひ足を
お運びください。



昨年度の卒博フィナーレの様子

令和元年度常任幹事名簿(表 1)

令和元年度常任幹事名簿を掲載いたしま
す。常任幹事は芸術学部校友の代表とし
て、年間7～8回開催される常任幹事会へ
の出席、総会や日芸祭の校友会ブースで
のお手伝いなどを行っています。

日本大学本部校友会に入会ご希望の方は、
申し込み用紙をお送りいたしますので校
友会事務局までご連絡くださいませ。芸
術学部校友会とは別組織となりますが、
本部校友会に入会するとその会費の一部
が芸術学部校友会に交付されます。

令和元年度(2019年度)予算

収入之部		
勘定項目	摘 要	金額(円)
本部よりの会費	準会員 4,000円×3,950人=15,800,000円 正会員 3,000円×45人=135,000円	15,935,000
校友会終身登録費	5,000円×300人=1,500,000円	1,500,000
雑 収 入	総会懇親会会費・新年顔合わせ会費 等	1,300,000
広 告 費	校友会報 広告掲載	350,000
収 入 利 息		5,000
合 計		19,090,000
特 別 会 計	前期繰越金	9,192,000
支出之部		
勘 定 項 目	摘 要	金額(円)
総 会 費	ホームカミングデーと同日開催のため特別会計へ	0
諸 会 議 費	常任幹事会・諸会議	220,000
消 耗 品 費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ・雑巾 他	19,486
通 信 費	ファイル・ノート・プリンターインク・コピー用紙 他	60,000
事 務 用 品 費	会報発送(在校生・卒業生)総会・会費請求切手 他	5,200,000
補 助 費	学科同窓会・幹事会・総会・日芸祭・卒業生を送る会 支部補助(20支部×5万円) 支部総会出席祝儀	1,500,000
寄 付 分 担 金	本部校友会分担金・日本大学130周年記念事業募金 他	440,000
印 刷 費	会報・総会・幹事会・終身登録費請求書 他	1,950,000
人 件 費	事務局員給料・アルバイト・人材派遣	4,300,000
法 定 福 利 費	労働保険・社会保険・雇用保険	700,000
旅 費・交 通 費	支部出張費・宿泊費・事務局員通勤定期代 他	1,650,000
租 税 公 課	利子税	1,000
活 動 費	学生諸活動支援・バッジ・キーホルダー	240,000
備品維持管理費	メンテナンス及びホームページ改良 コピー機リース(21,824円)	380,000
本 部 役 員 会 費	年会費(本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名各2万)	170,000
交 流 費	新年会・他学部校友会交際(13学部総会祝儀×2万円)	1,400,000
業 務 委 託 費	中間・決算・期末決算	165,000
雑 費	会報取材費・貸金庫代・スタジオマイデザイン料 他	240,000
支 払 手 数 料	銀行支払手数料など	28,000
退 職 積 立 金	事務局員退職金(校友会内規第4章第19条)	300,000
減 価 償 却 費		126,514
合 計		19,090,000
特 別 会 計	ホームカミングデー及び総会懇親会	2,000,000
	江古田通年化及び新棟建設に關した芸術学部への寄付	7,192,000
特 別 会 計 合 計		9,192,000

日本大学芸術学部校友会各支部（江古田会）連絡表

各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

支部名	連絡窓口	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送S52年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇S32年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽S54年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛	演劇S53年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一	放送S55年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術S52年度卒	023-631-8040
ふくしま江古田会	吉田 公之	美術S39年度卒	090-5845-1724
新潟江古田会	増井 伸一	写真S48年度卒	025-233-3910
長野江古田会	三浦 博之	放送S49年度卒	0263-46-2583
愛知江古田会	藤田 勝	演劇H9年度卒	090-1783-5103
石川江古田会	干場 文夫	音楽S50年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸S53年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真S44年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	光野 忠利	映画S40年度卒	090-9659-0952
熊本江古田会	奥村 隆志	写真S43年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真S52年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送S49年度卒	090-3739-7374
中国江古田会	馮 建国	院H9年度卒	—
台湾江古田会	林 舜龍	美術S61年度卒	—
韓国江古田会	イ サンユン	院H8年度卒	—

編集委員から一言

芸術学部校友会の封筒なのに見慣れない会報誌。これで振込用紙が入っていたら新手の振込詐欺!?と思いますよね。昨年100号を発行したことで、会報誌の改革に乗り出しました。予算が不足のため、校友が関係している会社の広告を掲載いたしました。馴染みのないものは受け入れるのに時間がかかるとはと思いますが、「読んでもらえる会報誌」を目指し、会報誌編集委員会はこれからも果てしない努力をいたします。

編集後記

去る7月13日、校友会総会と同日に、9年ぶりのホームカミングデーが開催されました。平成の時代とびつたり重なる所沢・江古田2キャンパス時代を終え、再び江古田に集約された授業数を収容するために建てられた真新しいA棟に皆様をお招きすることができて嬉しく思います。

(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学藝術学部

日本大学芸術学部校友会会報・第103号

2019年秋季号 ●令和元年10月発行●

- 発行人 田上 峻詞
- 編集人 田中 光子
- 会報編集委員 小泉 定弘、山本 英史、高松 豊、安部 裕、茅原 良平、長瀬 浩明、青木 敬士、稲垣 進一、千北 正

●発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 星野 祥子

(表 1) 校友会常任幹事名簿

所属	氏名	卒年度
会長	田上 峻詞	放S53
副会長	高橋 則英	写S52
副会長	田中 光子	写S53
副会長	佐々木 善朗	放S53
副会長	原 一平	演S48
副会長	萩原 伸之	放S56
旧制	桜井 理治夫	専S25
写真学科	小泉 定弘	S41
	原 直久	S43
	西垣 仁美	S58
	丹羽 寿成	S58
映画学科	山田 顕喜	S38
	浦井 孝行	S45
	宮澤 誠一	S46
	山本 英史	S57
	鳥山 正晴	S59
美術学科	長部 純平	H18
	高松 豊	S41
	笹井 祐子	H1
	小橋 克史	H1
	大橋 朋美	H21
音楽学科	田口 順一	S33
	西尾 敦子	H1
	川上 央	H7
	三戸 勇気	H11
	竹田 香子	H19
文芸学科	生沼 剛	S41
	河野 直樹	S50
	大塚 実	S53
	青木 敬士	H4
演劇学科	服部 晃一	S44
	向瀬 俊春	S48
	藤本 佳子	S60
	柴田 真由美	S61
放送学科	佐藤 貞二	S46
	森澤 広明	S54
	松井 篤	S59
	安部 裕	H2
	山根 宏之	H5
	茅原 良平	H13
デザイン学科	稲垣 進一	S35
	荒井 弘美	S50
	片岡 義和	S52
	千北 正	S52
	長瀬 浩明	S63

- 表紙デザイン 日本大学芸術学部 学部長 木村 政司
- 印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16
コア本郷ビル
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

「夢は正夢」

1981年度 放送学科卒業 萩原伸之

学生時代の私は勉強そっちのけでクラブ活動、学校行事への参加に明け暮れていました。

芸術祭の実行委員長を務めさせてもらい“仲間たちとのもの作り”“人に何かを伝えること”の喜びを知ったのも日芸江古田校舎でした。恥ずかしながら放送学科アナウンスコースで学んだにも関わらず就職試験は全敗、同級生の誘いでテレビ番組制作会社に何とか入る事が出来、そこでの仕事は大学でやってきた事の延長線。毎日がお祭りの準備をしている様でした。そして知ったのはまさに『夢は正夢になる』。夢のような企画がスタッフの熱い思いで多くの困難を乗り越えて現実のテレビ番組となり、多くの人たちに観てもらえる。こんな素敵な仕事は他にはありません。インターネット時代を迎え、映像制作の世界は大きく様変わりし、映像を使った表現の場が加速度的に増えています。それは誰しにもチャンスがあるという事です。『夢が正夢』になるチャンスが大きく広がったという事です。

日芸で学んだことで素晴らしい人生を送れている今、次の“夢”を模索しています。

日芸に、江古田の街に感謝しています。

(株式会社 ジッピープロダクション 1988年入社)

伝えよう あなたの感動を

ジッピー

株式会社 ジッピープロダクション

住所：東京都渋谷区恵比寿1-19-15ウノサワ東急ビル3階

職種：総合映像制作

詳しくはホームページで

<https://www.zippy-pro.co.jp>

言葉の大切さ

1977年度 放送学科卒業 佐々木きょう子

大学在籍中、アナウンス学科で学びながらもナレーターの仕事をしていました。

ちょうど時代はOA機器が出始めた頃で、需要も多くナレーターの仕事は大忙しでした。人に分かりやすく上手く伝えるということを大学で学ばせていただきました。

今ではかのスティーブ・ジョブズ氏や豊田章男氏など、企業のトップが自ら新商品の説明をするのは当たり前の時代です。

それは人に伝えることの重要性を物語っているのではないのでしょうか？

その時代、日本で唯一の大学で勉強できる学科に在籍できたことは、私の人生において、とても大切な4年間だったと言えます。

これからの時代AIなど人に代わる色々な技術が生みだされてくるでしょうが、やはり人の心に響くもの、ナレーションに代わるものは他にはないのではないかと思います。

興味をもたれた方は
是非ホームページより
エントリーしてください



MC、ナレーター、コンパニオン、モデル、
運営スタッフ等、募集中です

<http://www.long.gr.jp>



株式会社ロングアイランド

OSAKA OFFICE 大阪市中央区道修町 2-5-9 Phone06-6231-0100

TOKYO OFFICE 東京都品川区西五反田 1-11-6 Phone03-5759-7800

私の履歴書

1979年度 映画学科卒業 真壁喜久夫

映画学科監督コースに在籍、4年生になって卒業製作を撮りながら、クラブ活動にも夢中でろくに就職活動をしなかった事もあり、しばらく就職浪人をしてました。

テレビの制作会社にいる映画学科出身の先輩がイベントで人を探していると言う話を頂き、イベントの世界に足を踏み入れて、やってみたらやり直しのきかない仕事に面白さを感じ、その縁でイベント制作会社に入社し、17年後、何人かの社員を連れて(株)CICを設立し、代表取締役役に就任しました。

CICは主にスポーツイベントに従事し、大手広告会社との安定した取引もあり、ある程度軌道に乗ってはいましたが、いつかこのままではじり貧になってしまうと感じ、自社でセールス出来る商品を持ちたいとフィギュアスケートなどそれまでの大会運営のノウハウを活かし、アイスショーを主催する興行を行いました。当然、興業はリスクもあるので何回か赤字も経験しましたが、今まで経験した事のないチケットの販売や宣伝、海外選手の招聘などを行う事で得た海外の人脈やノウハウは会社にとっても財産となり、大きな事業の柱に成長しました。

その1つが「Fantasy on Ice」で今年も全国4ヶ所で開催しました。おかげさまで今年、会社も20周年を迎える事が出来ました。

(株式会社CIC 1999年設立)



その一瞬を、
その感動を、
その勇気を、

all sports
& culture
Live
Creator

CIC Inc.

株式会社シーアイシー

〒105-0004 東京都港区新橋5-9-1 新橋5丁目ビル1F
TEL 03-5777-5350 FAX 03-5777-5351 www.cicinc.co.jp

イベント・セールスプロモーションの企画・制作・演出・運営/アイススケート・ファンクラブ「アイスクリスタルの運営」

「想い」を実現するため

1979年度 放送学科卒業 大野俊裕

かまくらで有名な秋田の横手市に生まれ、親の仕事の都合で物心つく前に東京に移り、東京で育ちました。小・中・高では美術、音楽、技術等が得意な子供でした。そのようなことも影響し、情動的な学科の集合体である日芸に憧れを抱いていました。なかでも音響技術に興味があり、放送学科を受験しました。

入学してからは他学科の友人を通して、自分の考える表現と異なるモノの見方や表現方法のアプローチの違い等、直接肌で感じられる機会が身近にあることは非常に刺激的でした。

卒業後は、ディスプレイ会社に営業として就職した後、仕事を通じて知り合ったイベント制作会社に、仕事の領域を広げられる可能性を感じ、仕事の場を移しました。

イベントは、多方向の視点で様々な要素を捉え、調整し実行する力が必要で、一人では作れません。各分野のスタッフの協力を得て実施するのですが、支えてくれる優秀なスタッフが常に周りにいたことは、心強く、感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、オリンピック・大阪万博にも参画し、人々の夢や希望を乗せた記憶に残るイベントに携わっていきたいと思います。

現在、大手広告代理店の政府系事務局へ出向中
(株式会社DNA 1986年入社)



挑戦しないと体験できない。
<https://www.dna-ex.co.jp/>

Catch Up

QR Code

Multi Direction Company
DNA

新卒、中途募集中!

社名 株式会社ディー・エヌ・エー

住所 東京都品川区西五反田1-28-6 バーク第3ビル Phone: 03-5740-8100

電話番号 一般労働派遣事業許可 般13-305188

許可証 警備業法 第30004011号 プライバシーマーク 第10830256(07)

一般建設業 東京都知事許可 (般-27)第143261号

業務領域 イベント・プロモーション全般

昭和～平成～令和へ

1975年度 文芸学科卒業 河野直樹

今から66年前の1953年(昭和28年)8月28日、日本初の民放放送が日本テレビにより始まりました。その後1974年(昭和49年)4月に(株)日企は設立され、以来45年間、視聴者様により良い番組をお届けするため、日々番組制作に取り組んで参りました。

我が社は家族で楽しめるバラエティー番組を数多く制作しております。視聴者様に番組を通して笑顔と感動をお届けするには、先ず番組を制作する側が、笑顔で達成感と感動を味わえる環境に身を置くことが重要だと考えます。テレビ番組は一人では創れません。たくさんのスタッフが情熱と良識を持って制作現場で協働し、そこから生まれるパワーが個人を育て、そして会社も成長します。「会社は人、人はチカラ」。社員一人一人こそが日企という会社です。

昭和から平成そして令和へと時代が変わり、同時にテレビそのものがアナログからデジタルへと技術革新が進み、新たな形へ進化しようとも、それを見る人々の心までが変わることはありません。テクノロジーの進歩や視聴者様のニーズに柔軟に対応しながら、令和もその先の時代も皆さまに笑顔と感動をお届けして参ります。

(株式会社 日企 1976年入社)

会社は人、人はチカラ

nichiki

株式会社 日企

住所・東京都港区虎ノ門2-4-1 虎ノ門ピアザビル
職種・テレビ番組制作/映像制作
詳しくはホームページで・www.nichiki.co.jp



楽しむことが一番大切。

2013年度 デザイン学科卒業 干場風花

デザイン学科コミュニケーション・デザインコース卒業生の干場と申します。卒業後はデザイン事務所に勤めて、三年前にロボットに転職しました。ロボットでは、主に映画や広告のグラフィックデザインをしています。デザインセクションには、紙媒体だけでなく映像ディレクションやWEBサイトのアートディレクション、イベントの企画を考える人もいます。媒体にとらわれずデザインを考えることができるので、楽しいことが好きな人、色々なことに挑戦したい人におすすめします。

ロボットは、デザイン以外にもCMや映画等、様々な分野の人が身近にいるのが特徴的だと思います。そういう意味で、ロボットは日芸に似ています。みんながエンタテインメントを基軸に「楽しいことを届けたい!」という気持ちで仕事をしています。特に今、開発にも力を入れているので、何かやりたいことがある人は一緒にカタチにしていくこともできますし、まだ何をしたいのかわからない人も、ロボットであれば様々な仕事の機会があるので、そのきっかけを見つけることができるかもしれません。働いている自分自身も楽しむことが大切です。一緒に楽しめる人をお待ちしております!

(株式会社ロボット 2016年入社)

ROBOT



映像エディター
デザイナー
TVCMプロダクション
マネージャー 等

経験者
募集中



応募・問合せ先

recruit@robot.co.jp

(株)ロボット 東京都渋谷区恵比寿南 3-9-7

<https://www.robot.co.jp>

映像新時代をリードする

1985年度 放送学科卒業 名取 渚

子供の頃、テレビは家族の真ん中にあった。学校で友達と話すのもテレビ番組やアイドルの事だった。情報、エンタメ、トレンド、文化まで、テレビの影響力は絶大だった。「自分も人々の心を動かす番組を創りたい。」そんな志を持って日芸に入学した。

卒業後、何とかテレビ業界に潜り込み、ディレクターを目指して修行の日々。すべての時間と情熱を番組作りに費やした。

あれから、33年。どれくらいの数の番組を作っただろう？ 全く想像ができない。でも、子供から大人まで、笑って、泣いて、怒って、感動して、「心を動かす」番組をたくさん創って来られたと思う。

8年前、社長に就任してからは現場を離れ、会社の未来をクリエイティブしている。テレビ番組にこだわらず、ネットTVやネット動画、CG動画やVTuberなど様々なジャンルの映像を制作。映像メーカーとして新しい時代をリードできるようチャレンジしている。

『記憶に残る記憶を創造する』

志は今も変わらない。

(ウッドオフィス株式会社 1987年入社)

日芸があって今がある

2017年度 放送学科卒業 内堀由紀奈

トップシーンに入社して二年目となりました。会長が日芸放送学科の大先輩ということもあり、幼い頃からの夢であった、バラエティ番組に携わる仕事が出来ています。今も、テープのダビング待ちの合間にテレビ朝日の食堂でこの文章を考えています。テレビ番組制作会社は数多くありますが、恵まれた会社に運良く入れたなあと思う今日この頃です。私はテレビ朝日のバラエティ「激レアさんを連れてきた。」に配属されています。トップシーンではバラエティ以外にもドキュメンタリー、報道、ドラマ、音楽、恋愛リアリティなど幅広いジャンルの番組を制作しています。そして制作部の他に国際部、文化事業部があり、テレビだけではなくイベントやコンサートにも力を入れています。ですので、色々な人が会社にて面白いです。

他社のADからも「トップシーンのディレクターはいいなあ」と本当によく言われます。先輩方は、ぶっ飛んでてたまについていけない時もありますが、最高に面白くて頑張ってついて行こうと思える方々です。なんだか、上辺で言ってる感じがぷんぷんしますが、文章で全ては伝わらないと思うので、トップシーンに興味を持っていただいた日芸生は、ぜひ訪問しに来てください。

(株式会社トップシーン 2018年入社)



記憶に残る記録を創造
<https://www.wo-gr.jp/w-o/>

新卒・第二新卒大募集!!

社名 ウッドオフィス株式会社
住所 東京都港区新橋5-26-5 ウッドグループビル
電話番号 03-6402-1221
業務内容 映像コンテンツ企画・制作
(テレビ番組・ビデオソフト・コマーシャル・デジタルコンテンツ)
イベント企画制作/セールスプロモーション企画制作



新卒・中途 制作スタッフ募集中!
ご応募はHPからお願いします

Top Scene INC.

PRODUCTION
INTERNATIONAL
CULTURAL PROGRAM
SALES PROMOTION

株式会社 トップシーン
東京都渋谷区渋谷2-14-17 渋谷SSビル9F
TEL : 03-3797-3789 HP : topscene.co.jp

【事業内容】
テレビ番組の企画・制作/映像コンテンツの企画・制作/
アジア(中国・韓国等)のロケーションコーディネート/
イベント企画プロデュース/コンサート企画プロデュース

2020年度一般入学試験A方式について

一般入学試験A方式第1期

【第1週】

学科	試験日	試験場所
写真学科	2月4・5日(火・水)	芸術学部校舎
美術学科		
音楽学科	2月4・5・6日(火・水・木)	
演劇学科	2月4・5日(火・水)	
放送学科	一次 2月4日(火) 二次 2月7日(金)	

【第2週】

学科	試験日	試験場所
映画学科	2月11・12日(火／祝・水)	芸術学部校舎
美術学科		
文芸学科	2月11日(火／祝)	
デザイン学科	2月11・12日(火／祝・水)	

一般入学試験A方式第2期

学科	試験日	試験場所
写真学科	3月3日(火)	芸術学部校舎
映画学科	3月3・4日(火・水)	
美術学科		
音楽学科		
文芸学科	3月3日(火)	
演劇学科	3月3・4日(火・水)	
放送学科	一次 3月3日(火) 二次 3月6日(金)	
デザイン学科	3月3・4日(火・水)	

入試博覧会について

日時	2020年3月22日(日) 13:00～17:00(予約不要・入退場自由)
会場	芸術学部校舎
内容 (予定)	●個別進学相談コーナー 各学科の教員が個別に受験生の相談にお答えします。 美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします。 ●事務局による総合相談コーナー 学生生活や就職、試験に関する総合的な相談や、編入学・転部試験についてお答えします。 ●ビデオ上映コーナー(映画、演劇学科実技試験参考VTR)

※当日は日藝の卒博を実施していますので、学生の卒業作品やキャンパスの雰囲気もご覧いただけます。

入試情報に関する詳細は芸術学部ホームページをご確認ください。

日本大学芸術学部ホームページ <http://www.art.nihon-u.ac.jp>

